

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	三重県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	安濃町立東観中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	18
生徒数	114	107	116	1	338	

研究の概要

1. 研究の主題

豊かな心を持ち、自ら実践する生徒の育成

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・ 研究重点教科 全学年数学・英語(指導内容に強い系統性がある、段階を追った指導が必要で生徒の理解度に差がでやすい)
 主題を実現するためには 他の教科においても研究をすすめていく。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テ・マ 基礎的・基本的な学習内容を確実に収得させる指導の工夫</p> <p>研究の見通し 生徒に基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導を通し、生徒が願いや考えをしっかりと持てるであろうし、いろいろな場や体験・経験の中で学ぶ価値や必然を感じたとき主体的に実践していくであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 基礎基本の確実な定着をめざす指導体制の工夫 朝の10分間学習 本年度は、日課変更をし、朝学活の中に基礎学力を鍛える10分間の継続的な学習時間を確保する。教え合う学習集団づくりのひとつの場としてもとらえている。 1・2年では英語・数学(教師作成)、3年では5教科(市販)を実施している。1・2年での実施方法は、授業進度に応じた復習として基礎・基本的な内容を5~6問程度出題している。英語は、単語練習・定着も考えた内容になっている。生活班で机をつけて教え合いができる形態をとっているが、問題を解くために時間がかかり教え合う時間が確保できないことが多いので、1年では、総合的な学習の時間(TCタイム)に朝の学習の確認テストの時間を位置づけ、その中で、教え合い・高め合う人間関係づくりをすすめると共にTCタイムと教科の関連を図った基礎学力の充実をめざしている。</p> <p>(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善 選択学習の工夫 2・3年の数学・英語における習熟度別選択授業について、各学年・各教科ともA(基礎)コース、B(定着)コース、C(応用)コースの習熟度別学級編成をしている。コース選択にあたっては、ガイダンスを行い、また、最初基礎・基本の定着を見るテストを実施してその結果も参考に生徒が自己選択でコースを決定している。決定に迷いのある生徒は教師に相談して決め、途中のコース変更は可能とした。 各学年週2時間を教育課程に位置づけ、数学1時間英語1時間を履修する。学級を2分し、前半グループ(数・英の順)後半グループ(英・数の順)に分かれて通年で学習する。</p> <p>【数学】[必修数学の進捗状況に準じた学習内容の補充・発展学習という形で各講座を展開する。] Aコース - 基本問題のドリル学習中心。 Bコース - 教科書(指導要領の内容)に関する問題及び発展教材についての演習。 Cコース - 教科書(指導要領の内容)の発展教材を中心。</p> <p>【英語】[1・2年の学習内容を中心に補充・発展学習という形で講座を展開する。] ・2年 共通教材リスニング練習・単語プリント・確認テスト A・Bコース - 1・2年の学習内容の復習。</p>
--------	--

- Cコース - A L Tと共に指導にあたり、教科書から離れた話す・聞く・書く活動中心
- ・3年 共通教材リスニング練習
- Aコース - 1・2年の基礎的な文法・単語中心の復習。
- Bコース - 1・2年の基礎的な文法・単語中心の復習、多読速読等読む力をつける演習。

Cコース - A L Tと共に指導にあたり、スピーキングを中心に実践力をつける演習。

3年では2教科以外に国語・理科・音楽・美術・体育・技術・家庭を選択教科として位置づけ、生徒の興味・関心に基づく選択によって1講座選択し、学習活動に主体的・創造的に取り組む態度や表現力を豊かにする学習の展開をしている。例えば、音楽では「しの笛」を竹を切るところから作り始め完成したしの笛の演奏を楽しんでいる。理科では、畑で作物を作り収穫を味わったり、川・池の環境調査を行ったり環境教育を通して自分の生き方も考えさせる取り組みをしている。家庭科では、環境教育としてエコクッキングに取り組んでいる。

少人数教育の指導方法・指導体制の研究

【数学】

- 1年 - 中学教育第1段階ということで、選択履修方法は基本的には、教室の座席の前後で2グループに分けての少人数編成としたが、小単元「方程式の利用」では、習熟度別に個人選択で基本コースと応用コースに分かれる。習熟度別に分かれての学習内容は、基本的に同じ内容を指導したが、進度や練習問題の量、応用的な問題の量でコースの適性に合わせた指導を行うと共に、課題の点検を個別に指導するなど可能な限り個に応じた指導を行う。
- 2年 - 10月まで選択履修方法は、教室の座席の前後で2グループに分けての少人数編成としたが、単元「図形」から、習熟度別個人選択による基本コースと応用コースに分かれる。習熟度別に分かれての学習は、進度や練習問題の量、応用的な問題の量でコースの適性に合わせた指導を行う。
- 3年 - 教室の座席の前後で2グループに分けての少人数編成としたが、単元「三平方の定理」から、習熟度別個人選択による基本コースと応用コースに分かれる。習熟度別に分かれての学習内容は、基本的に同じ内容を指導したが、進度や練習問題の量、応用的な問題の量でコースの適性に合わせた指導を行う。

【英語】

- 1年 - 中学校教育第1段階ということで、T T指導の形で文法事項「一般動詞の疑問文とその答え方」の学習まで合同、その後、教室の座席の前後で2グループに分かれての少人数編成とする。指導の工夫として、教師作成のフラッシュカードの利用、毎時間ウォーミングアップとしてチャンク練習、家庭学習定着のための復習プリントや課題を行っている。また、個の習熟度の違いに応じる指導の1つとして、小テストでは基本問題とチャレンジ問題を出題。基本問題は基本文・必修語で採点対象とし、チャレンジ問題は自分の力に応じて挑戦するため採点対象ではないが点検をしほめ言葉を必ずコメントしている。
 - 2年 - 各学期の始め1ヶ月は合同、その後習熟度別に個人選択で基礎コースと応用コースに分かれる。共通指導内容は、単語の課題とテスト、チャンク練習とし、指導方法はコースの適性に合わせる。
 - 基本コース - 教科書の学習内容の指導と1年生の教科書利用のリーディング・シャドーイング・ディクテーションの活動を取り入れ読む・聞く力の向上に力を入れる。
 - 応用コース - 教科書の内容をつかむQ & A、やや詳しい文法的な説明を加え応用力を高める指導を行う。
 - 3年 - 各学期の始め1ヶ月は合同、その後習熟度別に個人選択で基礎コースと応用コースに分かれる。指導方法はコースの適性に合わせる。進度調節の打ち合わせを綿密にし、学習内容や進度を同じにする。
 - 基本コース - 文法の導入や練習のために学習プリントを使い、問題の難度に応じてヒントを与えている。
 - 応用コース - 問題量を増やし、難易度の高い問題を加え応用力を高める指導を行う。
- A L Tが加わった指導は各学級週1回。1年では少人数学級での指導とし、2・3年では内容に応じて合同授業と少人数学級での指導と柔軟に対応している。

(3) 生徒が主体的に活動できる基盤を確かな物にしていく指導と工夫

学習習慣・規律づくりをすすめる

生活リズムづくりをすすめる

自分自身を認識し、受容でき、互いの違いを認め、助け合い、高め合う学級・学年集団づくりをすすめる。

総合的な学習の時間と必修・選択教科、道徳、特別活動を相互に関連づけながら、生徒が課題意識を持って活動するてだての工夫と実践。

テ - マ
 基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導の工夫

研究の見通し

生徒一人ひとりの実態を多面的にとらえ、学力に関する課題をつかむことで生徒の特性に応じた多様な学習活動と指導法の工夫ができると考える。生徒自身が何ができて何ができていないのかを気づき学習の場で「わかる」「できる」喜びを少しでも実感できたとき、学習に対して意欲を持って取り組みはじめると考える。さらに、いろいろな場や体験・経験の中で学ぶ価値や必然を感じたとき主体的に実践していくであろう。

研究の内容・方法

(1) 生徒の実態を多面的に把握・ガイダンス機能の充実

一人ひとりの学習状況や課題を多面的に把握するためのたでの1つとして、学習適応性検査を実施し、その結果と日々の活動の中でとらえた姿を総合的に判断しながら、個別に相談を行う機会をもつ。

(2) 基礎基本の確実な定着をめざす指導体制の工夫

・朝の10分間学習

1年では、入学時の学力診断テストと学習状況から判断して、英語・数学・国語（教師作成）、2年では英語・数学（教師作成）、3年では5教科（市販）を実施している。1・2年での実施方法は、授業進度に応じた復習として基礎・基本的な内容を5～6問程度出題している。尚、教科によっては、定期テストに同じ問題を何題か出題し「わかる」「できる」が評価結果につながる実感を持たせる指導につなげている。また、この10分間学習は教え合う人間関係をつくる大切な場でもある。

(3) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善

選択学習の工夫

2年では数学・英語における習熟度別選択学習。3年では数学・英語における習熟度別選択学習と、理科・音楽・美術・体育・技術・家庭の中から1教科選択する選択学習となっている。

数学・英語は、A（基礎）コース、B（発展・応用）コースがある。コース選択にあたっては、ガイダンスを行い、生徒が自己選択でコースを決定している。決定に迷いのある生徒は教師に相談して決め、途中のコース変更は可能とした。

各学年週2時間を教育課程に位置づけ、数学1時間英語1時間を履修する。学級をA・Bコースに分けて、1時間（数Aコースと英Bコース）、1時間（数Bコースと英Aコース）に分かれて通年で学習する。

【数学】学級別に各コースを指導する。

Aコース... ゆっくりとしたペースで、基本問題のドリル学習中心で、教科書の内容の定着を図る。

Bコース... 教科書の問題及び発展教材についての演習。

【英語】

・2年は指導教員2名で学年担当のため、学年全体をA・Bのコース別に、リ・ディングとスピーキングの講座を開設、学期の前・後で講座入れ替えをして、各コースともに2講座学習できるようにした。（但し、リスニング練習を共通教材とする）

Aコースリ・ディング... 1年で学習した内容を中心に少しまとまった文の読みとりを中心に基礎的な力をつける。

スピーキング... 話す活動を中心に基礎的な力をつける。

Bコースリ・ディング... 自分でどんどん読む力を伸ばす。

スピーキング... 会話作りを中心に表現の力を伸ばす。

・3年は、学級別に書くコースを指導する。（リスニング練習を共通教材とする）

Aコース... ゆっくりとしたペースで、1・2年の基本文型のドリル学習中心

Bコース... 長文の読み取りを中心に自分でどんどん読む力を伸ばす。

数学・英語以外の教科の選択学習は、生徒の興味・関心に基づく選択で、必修教科内容を深めたり発展させ、学習活動に主体的・創造的に取り組む態度や表現力を豊かにす学習の展開をしている。

少人数教育の指導方法・指導体制・教材の工夫の研究

【数学】

1年 - 1学期中間テストまでは一斉指導。その後は、教室座席の前後で分けての少人数編成での指導とした。但し、単元の演習問題などで、習熟度別に個人選択で基本コースと応用コースに分けて指導にあたる。正負の数の四則計算の操作方法等を言葉で言わせることで、思考の定着をは

かった。

- 2年 - 教室座席の前後で分けての少人数編成での指導。但し、単元の演習問題などで、習熟度別に個人選択で基本コースと応用コースに分けて指導にあたる。文章問題を解く学習では、1年の既習事項の確認をすることで、2年の学習事項の理解を容易にさせた。方程式の解き方などを口頭で言わせることによって処理的な計算能力を高めるてだてとした。
- 3年 - 習熟度別個人選択による基本コースと応用コースに分けて指導。習熟度別に分かれての学習内容は、基本的に同じ内容を指導するが、進度や練習問題の量、応用的な問題の量でコースの適性に合わせた指導を行う。証明問題や立体の体積を求める問題の学習では、解き方を探る段階で教師自作の模型を使い既習事項を生かし展開していく力を高めるてだてとした。

【英語】

各学年ともALTの授業は一斉指導で、コミュニケーション活動を大切にしている。毎時間、プリント(Unitごとに単語や熟語・文が書いてある)を用いたペア学習 単語テストを実施。

- 1年 - 1学期中間テストまでは一斉指導。その後は教室の座席の前後で2グループに分けての少人数編成とする。プリントを用いたペア学習は、2学期から実施。単語テストは、Unitごとのテスト・再テストも実施し学習の定着を図る。
- 2年 - 2学期中間テストまでは、座席前後の少人数編成の指導。その後習熟度別少人数指導。単語テストは、Unitごとのテストも実施する。基礎コースでは、時間を区切って書くなど作業的な活動を取り入れる。
- 3年 - 習熟度別個人選択による基本コースと応用コースに分かれる
基本コース - 文法の導入や練習のために学習プリントを使い、問題の難度に応じてヒントを与えている。
応用コース - 問題量を増やし、難易度の高い問題を加え応用力を高める指導を行う。

一斉指導における個に応じた指導方法・教材の工夫の研究

各教科では、生徒の実態をもとに教科としてつけたい力を設定し、教科の特性に応じた指導法を工夫している。例えば、

【国語】

生徒の実態として、全体的に正しく文を書いたり、わかりやすく興味を持てる文章を書く力に欠けている。そこで教科としてつけたい力を漢字の読み書き、語句の意味・用法の理解等、基礎的な力を身につけた上で、読む力や伝える力(自分の考えや思いをわかりやすく、興味深く表現できる力)とした。

漢字の(読み)書き

- 1年生・・・漢字の成り立ちの学習を十分にし、漢字を丸暗記するのではなく、成り立ちをふまえて、効率よく漢字の読み書きを覚えられるようにする。
- 2・3年生・今一度、漢字の成り立ち(特に部首の持つ意味)を復習し、それをふまえて漢字の読み書きを効率よく覚えられるようにする。知らない漢字でも予想して読めるような学習や、忘れかけたり迷ったときに正しい漢字を構成する力を身につける学習の機会を設定する。

「楽に漢字を覚えよう」のプリントによる学習、漢字練習用プリントを作成し、漢字の練習をしやすくする。

語句の意味・用法の理解

各学年とも、漢字の読み書きの指導と関連させて、漢字練習用プリントを作成するときに、難しい意味を持った漢字は必ず語句の意味を提示して、漢字を覚えやすくすると同時に、語句の意味・用法の定着を図る。

文学教材や、説明文教材

単なる内容の読みとりに終わるのではなく、自分の伝えたいことを、どのように工夫したら、わかりやすく興味を持てる文章を書いたり、発表ができるかを学べる場となるように心がける。

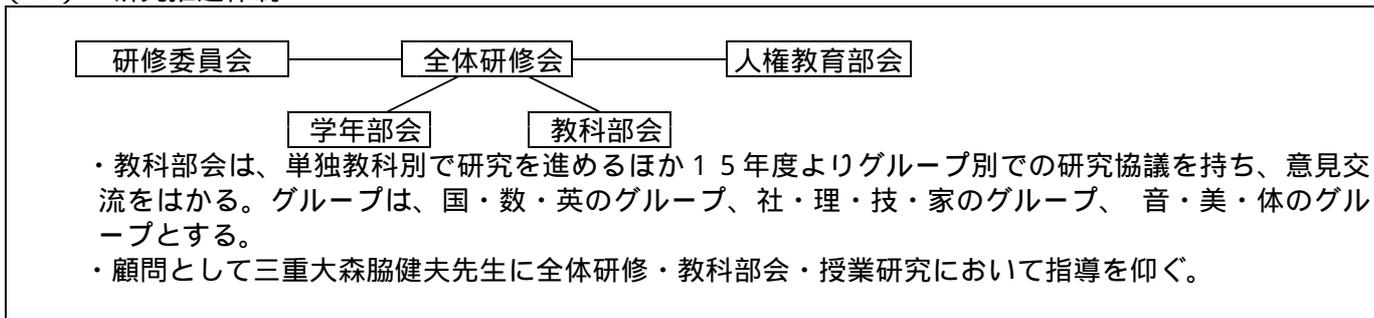
以上にあげた教材の工夫と次にあげる個に対する指導を行った。

1. 文法等、小テストを実施する機会を多く持ち、テストを返すときに、注意点などを書き添えるようにした。また、テストの結果をふまえて、理解の足りないところは、再度指導するように配慮した。
2. 「書く」活動では、添削指導を通して、1人ひとりの書くときの直すべき癖とでもいべきものを直していけるように配慮した。例えば、漢字、語句の使い方、表記の仕方間違い、文法的な間違い、1文が長すぎたり、段落をつけられない等のことについて、1人ひとり特有の癖を直していけるようにした。

	<p>(4) 生徒の学力の評価を活かした指導の改善 昨年度末に現2・3年が、国語・数学・英語でCRT(目標基準準拠検査)を実施、その結果(別紙資料2)をもとに、 国語 - 基本的な書く力の育成として、漢字の読み書き練習の充実と、この指導と関連させて、語句の意味・用法の定着を図る取り組みを進める。また、わかりやすく興味の持てる文章を書く力の指導方を工夫する。 英語 - 「書く力」に課題があるため、単語の早覚え練習プリントや毎時間単語のテストを実施。リスニングの力をつけるため本文内容は何度もCDを聞かせる。選択学習でリスニング教材を使う。</p> <p>(5) 生徒が主体的に活動できる基盤を確かなものにしていく指導と工夫 学習習慣・規律づくりをすすめる。月間重点目標を掲げ取り組む。 生活リズムづくりをすすめる。 自分自身を認識し、受容でき、互いの違いを認め、助け合い、高め合う学級・学年集団づくりをすすめる。 総合的な学習の時間と必修・選択教科、道徳、特別活動を相互に関連づけながら、生徒が課題意識を持って活動するてだての工夫と実践。 人権・環境・福祉・生き方のテーマを取り上げ、ゲストティ-チャ-の歩んでこられた生き方を通して学んだり、校外実習から貴重な体験を得た。また、環境教育では理科や技術・家庭科の学習と職場体験学習では国語科の学習とリンクさせて取り組んだ。</p> <p>(6) 基礎・基本の定着に関わる小・中学校の情報交換の機会をもち共通認識をもつ取り組みをすすめる。 ・1年では、5月中旬ごろ、小学校の担任教師が授業参観をかねた小中交流会を実施、中学校での学力も含めた状況を伝える。 ・グル-ブ別授業研究では、郡内から提案授業の教科担当者を助言者として招き交流をはかる。</p>
--	---

	<p>テ-マ 基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導の工夫</p>
平成16年度	<p>研究の見通し 生徒一人ひとりの実態を多面的にとらえ、学力に関する課題をつかむことで生徒の特性に応じた多様な学習活動と指導法の工夫ができる。生徒自身が学習の場面で「わかる」「できる」喜びを少しでも実感できたとき、何ができて何ができていないのかを気づき、学習に対して意欲を持って取り組みはじめると考える。考えや願いをしっかりと持たせるために基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導が大切である。さらに、いろいろな場や体験・経験の中で学ぶ価値や必然を感じたとき、生徒は主体的に実践していく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 生徒の実態を多面的に把握・ガイダンス機能の充実</p> <p>(2) 基礎基本の確実な定着をめざす指導体制の工夫 ・朝の10分間学習</p> <p>(3) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善 選択学習の工夫 少人数教育の指導方法・指導体制・教材の工夫の研究 一斉指導における個に応じた指導方法・教材の工夫の研究</p> <p>(4) 生徒の学力の評価を活かした指導の改善</p> <p>(5) 生徒が主体的に活動できる基盤を確かなものにしていく指導と工夫 学習習慣・規律づくりをすすめる。 生活リズムづくりをすすめる。 自分自身を認識し、受容でき、互いの違いを認め、助け合い、高め合う、学級・学年集団づくりをすすめる。 総合的な学習の時間と必修・選択教科、道徳、特別活動を相互に関連づけながら、生徒が課題意識を持って活動するてだての工夫と実践。</p> <p>(6) 基礎・基本の定着に関わる小・中学校の情報交換の機会をもち共通認識をもつ取り組みをすすめる。 学習習慣・規律の定着について共通認識を持つ。</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

生徒の実態把握

学習適応性検査(AAI)の結果(別紙資料1)より、本校の生徒の学習態度や学習技術など以下にあげる傾向をつかむことができたと共に、学習の仕方・予習や復習など家庭学習の習慣作りの指導を教科の特性に応じて2学期よりとりかかりはじめた。

- ・「教え合う」人間関係づくりが良好であったり、教師との良好な関係が作られている。毎日「朝の10分間学習」も学び合う土台づくりの1つとして有効に働いていると考える。
- ・計画を立てて学習をする習慣がついてない傾向、学習の技術が身につけてない(知らない)ために「わかる」実感がつかめないでいることがわかった。予習・復習の仕方や定期テスト前の勉強の仕方などの指導と確認を定期的に行う必要があることがわかった。

朝の10分間学習

CRT(目標基準準拠検査)結果 1年国語(別紙資料2)より漢字の読み書きに理解不足が見られたため、本年度は、1年で朝の10分間学習に国語(漢字学習)を実施した。週に1回(金曜日)に位置づけ、定期テストには同じ問題を4割程度出題した。結果は以下のとおりで、週一回の学習ではあるが、定期テストで評価がでるため生徒の学習意欲が高く、効果があらわれたと考える。

	1中間	1期末	夏休み明け	2中間	2期末	冬休み明け
満点	30点	20点	30点	20点	20点	30点
平均	20点	13点	11点	15点	13点	17点
満点を100点としたときの平均	67点	65点	37点	75点	65点	57点
朝学の有無			×			×

このことにより、来年度は全学年で国語・数学・英語の学習を実施する方向で考えている。

選択学習

数学では、コ-スにあった問題を多く解き、生徒同士で教え合うことによって理解度の定着をはかった。また、自分の能力に応じた内容に取り組むことによって、意欲的に活動することができた。

基礎コースでは、先行学習をすることで基礎的な内容の定着がはかれた。

少人数教育

数学・英語共に、生徒の実態や学習状況から習熟度別指導にするかどうか判断をしている。本年度は、段階をふまえて3年で習熟度別指導を実施している。

少人数教育をすることによって、1人ひとりの生徒に目が行き届き、個別指導の時間もとれ、個々の生徒のつまずきや生徒理解につながった。また、

英語では、単語の早覚え練習プリントや、毎時間・Unit毎の単語のテストの実施という継続的な書く指導を通し、生徒1人ひとりのつまずきへの対応がしやすかった。単語テストの結果をみる限り、1・3年で少人数指導のよさが現れていると感じる。

1年 (Unit 毎)

3年 (毎時間)

	1回目	2回目	3回目	4回目		4~5月	6~7月	9~10月	11~12月
満点	40点	30点	30点	30点	満点	130点	30点	50点	90点
7割以上得点	62人	54人	70人	68人	7割以上得点	90人	87人	95人	96人
受験者数	112	111	111	107	受験者数	113人	113人	113人	113人
割合 %	55.3	48.6	63.0	63.6	割合 %	79.6	77.0	84.1	85.0

1回につき10点満点

2. 今後の課題

生徒の学習習熟状況・興味関心などの実態を指導に当たる教師が共通理解を持つことが大切で、それにより、個に応じる教材・指導の工夫が具体的に進むと考える。また、学習面だけでなく生活面を含め個別に生徒の相談にのれる時間を定期的にとることで個のつまずきに対し理解と適切な対処がとれると考える。課題として、生徒の相談にのれる機会をいかにもうけるかがあげられる。

少人数・習熟度別学習による授業は、授業内容、テストや評価の仕方を含め課題が多い。また担当教師の連携が重要であるが、打ち合わせの時間も確保できない場合が多く（特に非常勤講師の先生とも同じように共通理解が必要となる）連携の仕方には多くの工夫が必要である。

少人数指導がとれない教科においても、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導の工夫と教科の特性を生かした個に応じる指導の工夫の研究がさらに必要である。

学力把握のための学校としての取り組み

平成16年度は、全学年4月のはじめに、CRT（目標基準準拠検査）を実施。内容は、新1年生は小学校6年の学習内容について、2・3年生は前学年で学習した内容の定着をはかる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・研究会 日時 平成14年11月20日（水）

場所 東観中学校 全学年全学級

内容 国語・数学（習熟度別少人数）・英語（TT）・理科・音楽・人権

・今後成果等をHPによって公開する。地域の小中学校の教科担当者とも交流をはかる場を可能な限りもつ。

【新規校・継続校】 14年度からの継続校

【学校規模】 10～12学級

【指導体制】 少人数指導

【重点研究教科】 数学 外国語

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有